



インフルエンザが注意報レベルを超えました

2026年第40週(9月28日～10月4日)の発生動向調査において、熊本市内の定点医療機関からのインフルエンザ報告数は236件(1定点医療機関当たり10.26)で、国が定める注意報レベルの基準値「10」を超えました。

高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まります。

マスク着用や、手洗い・手指消毒等の基本的な感染対策により、感染を予防しましょう。

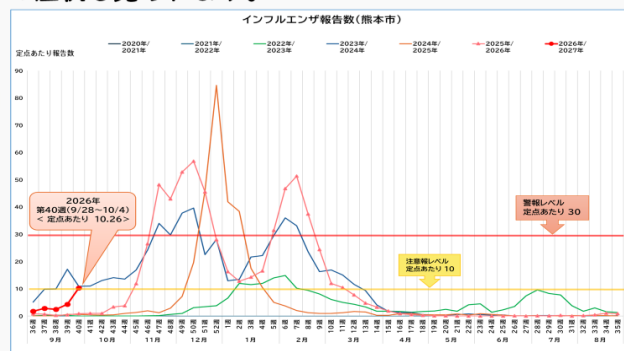


●主な症状●

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。

●予防対策●

- ① 流行前のワクチン接種
- ② 外出後の手洗い等
- ③ 適度な湿度(50～60%)の保持
- ④ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- ⑤ 人混み等の混雑した場所への外出を控える
- ⑥ 室内ではこまめに換気をする



定点 種別	疾患名	状況	39週(9/21～9/27)		40週(9/28～10/4)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	△	100	4.35	236	10.26
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		7	0.30	7	0.30
	急性呼吸器感染症(ARI)		677	29.43	1210	52.61
小児科	RSウイルス感染症		4	0.29	12	0.86
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	3	0.21	0	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	11	0.79	26	1.86
	感染性胃腸炎	—	26	1.86	24	1.71
	水痘(みずぼうそう)	—	1	0.07	0	0.00
	手足口病	—	1	0.07	6	0.43
	伝染性紅斑(りんご病)	—	0	0.00	0	0.00
	突発性発しん		13	0.93	13	0.93
	ヘルパンギーナ	—	5	0.36	16	1.14
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	0	0.00	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	8	1.60	7	1.40
基幹	細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警戒・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警戒レベル △:注意報レベル —:警戒・注意報レベルなし